文楽若手自主公演

素浄瑠璃の会

絵本太功記　尼崎の段

浄瑠璃　豊竹芳穂太夫
三味線　鶴澤清公

【開催日】平成二十九年二月二十三日（木）
一八時三十分開演（一八時開場）
【会場】砂丘館　新潟市中央区西大畑町五二一八―一
【料金】前売券三千円（自由席）当日券三千三百円
・定員五十名　座布団席または椅子席となります。
・演奏時間は一時間十五分の予定です

【お申込み・お問合せ】
・電話　080-5441-7370（高野）
・メール　takano@nuttaribeer.co.jp
【前売り券販売所】
・新潟・市民映画館　シネ・ウインド
（新潟市中央区八千代二―一―一電話025-243-5530）
・カフェ　パルム　蒼紫
（新潟市中央区古町通六番九八七　電話025-228-2050）
・川辰仲（中川）（鍋茶屋向かい　取扱時間十一時～十八時）
（新潟市中央区古町通八番町一四三九　電話025-222-2569）
・沼垂ブルワリー＆ビアパブ（営業日・金土日）
（新潟市中央区沼垂東一―六―一電話025-383-8720）

《主催》素浄瑠璃を楽しむ新潟の会

絵本太功記　尼崎の段（ご紹介）

『絵本太功記』（えほん たいこうき、旧字体：繪本）は、江戸中期の人形浄瑠璃および歌舞伎の演目。近松柳・近松湖水軒・近松千葉軒 合作、時代物、全十三段。通称『太功記』（たいこうき）。人形浄瑠璃の初演は、寛政11年7月（1799年8月）大坂豊竹座。

『太閤記』の主人公は勝者である太閤豊臣秀吉ですが、『太功記』の主人公は敗者の明智光秀です。本作はその光秀が本能寺の変で織田信長を討ってから、天王山の合戦で秀吉に破れて滅ぼされるまでの、いわゆる光秀の「三日天下」を題材にしたものです。

主君・尾田春永から辱められた武智光秀は、ついに耐えられなくなって謀反を決意しこれを討ちます。一方、高松城主・清水宗治と対峙していた真柴久吉は、これを知ると宗治を切腹させ、急ぎ小梅川（史実の小早川）と和睦を成立させます。だが光秀の母である皐月は、これに怒って家出してしまいます。光秀は腹を切ろうとするが諫められ、久吉を討つため御所に向かいます。尼ヶ崎に皐月は引きこもりますが、光秀の子・十次郎とその許婚である初菊の祝言をあげ、十次郎は出陣します。その時ある僧が宿を求めてきましたが、後から来た光秀はこれを久吉と見破り、障子越しに槍で突きます。しかしそこにいたのは皐月でした。そこへ瀕死の十次郎が帰ってきます。もはや戦況は絶望的となり、皐月も十次郎も死んでしまい、動転した光秀の前に久吉と佐藤正清が現れ、後日天王山で再び会うことを約束して、去っていきます。

浄瑠璃のヤマ場のひとつに、武智光秀の子息・十次郎と婚約者・初菊との別れの場面があります。十次郎は、ひとり部屋に残り祖母の操に今生の別れを、婚約者・初菊には他家への嫁入りを願います。それを聞いた初菊は、十次郎の覚悟を知り泣きすがりますが、諭され涙ながらに出陣の支度を手伝います。

この十次郎をひたすら慕う初菊の純情な気持ちと討ち死にを覚悟して出陣する十次郎。ふたりは、現世では結ばれない恋を確信し、おたがいが近づき感情の高揚が頂点に達し、十次郎と初菊は盃を交わして、十次郎は出陣して行くのでした。

豊竹芳穂太夫

［芸　歴］

平成十五年　二月　豊竹嶋太夫入門、文楽協会研究生
平成十五年　五月　豊竹芳穂太夫と名のる
平成十五年　九月　国立劇場で初舞台

［受賞歴］

平成二十二年　四月　第三十八回（平成二十一年度）文楽協会賞
平成二十三年　四月　第三十回
（平成二十二年）国立劇場文楽賞文楽奨励賞
平成二十四年　四月　第四十回（平成二十三年度）文楽協会賞
平成二十五年　六月　十三夜会賞
平成二十六年　四月　十三夜会賞
平成二十七年三月第四十三回（平成二十六年度）文楽協会賞

鶴澤清公

［芸　歴］

平成十六年　四月　国立劇場文楽第二十一期研修生となる
平成十八年　四月　鶴澤清介に入門、鶴澤清公と名のる
平成十八年　七月　国立文楽劇場で初舞台

［受賞歴］

平成二十八年　四月　第三十五回
（平成二十七年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞

■素浄瑠璃について

人形浄瑠璃文楽は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。その成立ちは江戸時代初期にさかのぼり、古くはあやつり人形、そののち人形浄瑠璃と呼ばれています。竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品により、人形浄瑠璃は大人気を得て、確立されました。

浄瑠璃の語りは、太夫の義太夫節によって浄瑠璃の世界を描き出し、伝えるのですが、場面の情景、物語の背景、登場人物全員の言葉など、全てを一人で語り分けます。

三味線は太夫の語りと一体になって義太夫節の情を表現します。三味線は太棹で、一番太くて重く、駒やバチ（撥）も大きく作られています。その重厚な太い音色が、人間性の本質に迫る義太夫節に適しております、音一つの内にも、背景や心情などを描き出します。

今回の「若手自主公演素浄瑠璃の会」は、この太夫と三味線で行われます

■新潟駅からバス：浜浦町線C2系統または観光循環バス乗車、バス停「西大畑坂上」下車徒歩一分
■タクシー：新潟駅万代口から約十五分（約三km）
■お車でお越しの方は西堀地下駐車場（片道15分／60分無料券配布）または近隣のコインパーキングをご利用下さい。